

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野 5 子ども・教育

評価責任者	所属	教育局 学校教育課
	氏名	課長 早川 泉

政策 2 学校、家庭、地域が連携し社会を生き抜く力をもった子どもたちを育てます

施策 1 確かな学力・豊かな人間性・健やかな体の調和のとれた子どもの育成

施策の目的 高齢化や少子化による本格的な人口減少社会の到来、交通網や情報技術の飛躍的な発展によるグローバル化の更なる進展など、これからの世界は、まさに激動の時代を迎えようとしています。このような社会変化が激しい中でも、常に夢と希望を持ち、自らの未来を切り開く「たくましく しなやかな子どもたち」こそ、本市の目指す次代を担う子どもの姿と考えています。そのために、確かな学力、豊かな心や感性、そして健やかな体という基礎的な力をバランスよく養うことで、社会の変化にも対応できる力を持った子どもたちの育成を目指します。

(1) 総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	施策の目的に沿った主要事業が計画どおり進捗しており、成果指標も概ね達成できているため。
	令和2年度	—	理由	新型コロナウイルス感染症対応に伴う学校の負担軽減の観点から、文部科学省が行う令和2年度の「全国学力・学習状況調査」及び「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」が中止となり、成果指標における実績値の基礎データが得られないため
	令和3年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	学力向上の支援事業や部活動システムの構築に向けた検討など、施策の目的に沿った主要事業が計画どおり進捗しており、成果指標も概ね達成できているため。
	令和4年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	学力向上の支援事業や部活動システムの構築に向けた検討など、施策の目的に沿った主要事業が計画どおり進捗しており、成果指標も概ね達成できているため。

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。 A：施策の目的が達成されている。 B：施策の目的があまり達成されていない。 C：施策の目的が達成されていない。 —：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率(%)	評価	目標値の算出根拠
成果指標	学習に対する関心・意欲・態度が見られる児童・生徒の割合	小学生 74.3% 中学生 64.0% (H30)	1	小 80.9%以上 中 70.0%以上	小 80.2% 中 68.7%	小 99.1% 中 98.1%	a	次期指導要領で重視される主体的に学習に取り組む態度をはじめとする「学びに向かう力・人間性」の涵養は、今後特に向上を目指す必要があることから、目標値を全国平均以上に設定する。 体力・運動能力向上については、自発的・主体的に運動に取り組むことが生涯を通じてスポーツに向かう基盤となっていることから、目標値を全国平均以上に設定する。
			2	全国平均以上	—	—	—	
			3	(全国平均以上) 小 78.1%以上 中 71.8%以上	小 76.1% 中 71.4%	小 97.4% 中 99.4%	a	
			4	(全国平均以上) 小 78.9%以上 中 71.7%以上	小 79.0% 中 72.14%	小 100.1% 中 100.5%	a	
	運動が好きだという児童生徒の割合	小学生 88.4% 中学生 82.7% (H30)	1	小 90.5%以上 中 84.2%以上	小 89.2% 中 83.6%	小 98.6% 中 99.3%	a	
			2	全国平均以上	—	—	—	
			3	(全国平均以上) 小 87.4%以上 中 83.9%以上	小 85.6% 中 82.8%	小 97.9% 中 98.7%	a	
			4	(全国平均以上) 小 89.2%以上 中 83.0%以上	小 87.6% 中 82.6%	小 99.5% 中 98.7%	a	
指標 成果 以外の の								

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
道徳教育の推進（教育センター）	児童・生徒の道徳力向上のための、学校教育全般における道徳教育及び道徳の授業の充実を促進する。 ①道徳教育推進教師研修会	1	1	16	0	16	1.0	0.0	0.0	○
			2	16	0	0	1.0		0.0	
			3	16	0	0	1.0		0.0	
			4	16	0	16	1.0		0.0	
複式学級への非常勤講師の配置（教職員課）	複式学級を有する学校に非常勤講師を配置し、国語、社会、算数、理科の基本4教科について学年別に授業を実施する。	2	1	42,605	0	43,239	0.1	0.0	0.0	○
			2	57,864	0	49,301	0.1		0.0	
			3	52,500	—	49,825	0.1		0.0	
			4	40,478	—	39,922	0.1		0.0	
日本一おいしい学校給食の提供（学校給食課）	①学校教育活動を通じた食育の推進 ②静岡ならではの献立の充実	3	1	84,478	0	84,030	0.1	0.0	0.0	○
			2	100	0	100	0.1		0.0	
			3	74,998	0	73,933	0.1		0.0	
			4	88,149	—	87,709	0.1		0.0	
静岡型部活動システム構築・推進プロジェクト事業（学校教育課）	①静岡市立中学校部活動ガイドラインの全面実施 ②外部顧問・外部指導員の配置 ③民間活用による支援体制「部活動応援隊」の活動推進 ④静岡市体育・文化連携協議会による地域連携の在り方に関する継続協議 ⑤静岡市部活動改革検討委員会による協議	2	1	2,678	0	1,994	1.5	0.3	1.0	○
			2	22,588	0	16,319	1.5		1.3	
			3	27,472	0	18,979	1.5		1.3	
			4	26,794	0	21,065	1.5		1.3	
南アルプススネスコエコパーク井川自然の家活用事業（教育総務課）	主に青少年を自然に親しませ、自然環境の中での集団訓練、野外活動、自然探求等を通じて、豊かな情操を培い、心身共に健全な青少年の育成を図るとともに、市民に自然探求その他の自然に関する学習の機会を提供する。	4	1	11,329	0	8,593	4.0	0.0	0.0	○
			2	7,714	0	4,592	4.0		0.0	
			3	5,245	0	1,938	4.0		0.0	
			4	4,983	0	4,080	4.0		0.0	
両河内地区自然の家整備事業（教育総務課）	①移転整備基本計画についてパブリックコメントを実施し、計画を策定 ②移転先となる旧清水西河内小学校の改修設計業務委託、土砂対策設計委託業務を実施 ③旧和田島自然の家の解体に向けた事前調査を実施	5	1	3,705	0	3,486	2.0	0.0	0.0	○
			2	0	0	0	2.0		0.0	
			3	16,500	0	15,169	1.0		0.0	
			4	57,343	0	7,361	1.0		0.0	
子どもの体力・学力向上の支援（学校教育課）	①全国学力・学習状況調査及び体力テストの結果分析と、専門家委員による学校への指導・助言等。 ②学力アップ支援員による放課後の補充学習支援の実施。	1	1	6,078	0	5,311	1.0	0.0	0.0	○
			2	22,977	0	18,224	2.0		0.0	
			3	5,897	0	5,609	2.0		0.0	
			4	5,870	0	5,477	2.0		0.0	

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画より実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後の取組や方向性

<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育の推進については、年2回、道徳教育を推進するため道徳教育推進教師研修会を開催し、「特別の教科 道徳」の考え方と理念、推進教師の役割と推進方法についての理解を図る。 複式学級への非常勤講師の配置については、引き続き複式学級があるすべての小学校に非常勤講師を配置していく。 非常勤講師の授業時数が年間35週で定められているため、学年末に複式を解消した授業が組めない現状がある。解消に向け、検討していきたい。 担任と栄養教諭、学校栄養職員によるTT授業の充実を図ります。また、実施時間や実施方法は各学校の状況に合わせて柔軟に対応することを周知する。 おいしく楽しい給食の提供を目指し、地場産物を活用した献立の研究を引き続き実施する。 部活動システム構築・推進プロジェクト事業については、令和4年度総合教育会議及び部活動改革検討委員会で協議し、「将来にわたって中学生がスポーツ・文化芸術に親しめる環境整備」という方向性が合意された。新たな活動「シズカツ」の令和8年度休日全市展開に向け、実証事業等を通して細部を検討していく。

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	5 子ども・教育
----	----------

評価責任者	所属	教育局 学校教育課
	氏名	課長 早川 泉

政策	2 学校、家庭、地域が連携し社会を生き抜く力をもった子どもたちを育てます
----	--------------------------------------

施策	2 教育力の向上
----	----------

施策の目的	小学校・中学校の9年間を見通し、各学校の教職員と地域社会が連携して系統的な学びを目指す静岡型小中一貫教育の準備を整えます。また教職員間の協働や研修等の実施により効果的な指導を行うことで、子どもを取り巻く教育力の向上を目指します。
-------	--

（1）総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	令和4年度の静岡型小中一貫教育に完全施行に向けた取組、教職員の資質・能力向上のための事業、学校図書館教育推進に係る司書の充実のための事業について、計画どおり進んでおり、成果指標も概ね達成できているため。
	令和2年度	—	理由	新型コロナウイルス感染症対応に伴う学校の負担軽減の観点から、文部科学省が行う令和2年度の「全国学力・学習状況調査」が中止となり、成果指標における実績値の基礎データが得られないため
	令和3年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	令和4年度の静岡型小中一貫教育一斉スタートに向けた準備や教職員の資質・能力向上のための事業、学校図書館教育推進に係る司書の充実のための事業について、計画どおり実施することができ、成果指標も概ね達成できたため。
	令和4年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	令和4年度一斉スタートした静岡型小中一貫教育の取組や教職員の資質・能力向上のための事業、学校図書館教育推進に係る司書の充実のための事業について、計画どおり実施することができ、成果指標も達成できたため。

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

（2）成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
	学力向上に向けた取組・指導を行った学校の割合	小学校 88.1% 中学校 87.4% (H30)		1	小 92.4%以上 中 92.2%以上	小 92.9% 中 89.4%	小 100.5% 中 97.0%	
2				全国平均以上	—	—	—	
3				(全国平均以上) 小 90.9%以上 中 91.3%以上	小 87.6% 中 95.1%	小 96.4% 中 104.2%	a	
4				(全国平均以上) 小 94.2%以上 中 93.3%以上	小 95.6% 中 97.6%	小 101.4% 中 104.6%	a	
指標以外の			1					
			2					
			3					
			4					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
小中一貫教育推進事業（学校教育課）	①静岡型小中一貫教育カリキュラムの策定のフォローアップ ②実践研究グループの取組 ③教職員研修・市民理解の促進	1	1	893	0	799	1.2	0.0	0.0	○
			2	852	0	757	1.2		0.0	
			3	333	0	161	1.2		0.0	
			4	0	0	0	1.0	—	—	
しずおか教師塾事業（教職員課）	①第13期（4～6月）第14期（10月～3月）の「入学講座」「教育講座」等、カリキュラム運営 ②第13期卒業認定等、卒業に関わる業務 ③第14期入塾希望者募集及び入塾選考試験業務	2	1	2,340	0	2,101	2.0	3.0	0.0	○
			2	2,223	0	2,050	2.0		3.0	
			3	2,127	0	1,918	2.0	3.0	0.0	
			4	2,127	0	1,858	2.0	3.0	0.0	
学校図書館教育の推進（教育センター）	①学校図書館の配置（児童・生徒数50人以上の小中学校へ配置：105校） ②学校図書館担当教諭、学校司書への研修 ③学校司書兼支援員の配置（50人未満の小中学校兼務配置15校）	3	1	64,510	0	61,639	1.5	0.0	0.5	○
			2	80,984	0	79,897	2.5		0.5	
			3	88,711	0	85,383	2.5		0.5	
			4	89,820	0	88,143	2.5		0.5	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後の取組や方向性

<p>・小中一貫教育推進事業については、各小中一貫教育グループにおいて、軸となる取組やしずおか学等のカリキュラムの見直しを進めることにより、教育の質の向上を目指す。実践研究グループの実践を全グループへと広めるとともに、先進的な取組事例について周知を進めることにより、個別最適で協働的な学びを実現する。</p> <p>・小中一貫コミュニティスクールの取組を進めることにより、学校と地域社会が一体になって地域の子どもを育てるかたちを整える。</p> <p>・しずおか教師塾について、人間力と教師力に磨きをかけ、情熱や使命感をもって子供たちを指導できる力をつけるカリキュラムを作成し開講する。</p> <p>・学校司書の継続的・安定的な任用・配置を行っていくことで、学校図書館のもつ3つの機能（「学習センター」「読書センター」「情報センター」）を充実させ、学校図書館の平準化・高度化を進める。</p> <p>また、学校図書館ポータルサイトや情報誌により教員や学校司書への情報提供を積極的に行い、学校図書館の授業での利活用を促していく。</p>
--

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	5 子ども・教育
----	----------

政策	2 学校、家庭、地域が連携し社会を生き抜く力をもった子どもたちを育てます
----	--------------------------------------

施策	3 学校・家庭・地域の連携強化
----	-----------------

施策の目的	少子・高齢化、核家族化、地域コミュニティの変化等を背景に、社会全体で子供たちを育てる必要性が高まっています。また学校は、複雑化・深刻化する様々な教育課題に対応するために、各分野の専門家や保護者・地域住民のボランティアなど、学校外部の多様な人材とのかかわりを深めていく必要があります。そこで、学校の運営や教育活動に対して多くの市民が支援・参画する機会を増やすとともに、学校・家庭・地域が連携して子供たちを育てる体制を整えていきます。
-------	---

評価責任者	所属	教育局 教育総務課
	氏名	課長 渡邊 能人

(1) 総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	推進員の配置や財政的支援、また、たより・リーフレット等による事例紹介により、様々な活動が定着しつつある。ひとつなぎサポーターを置く学校が昨年度の56校から61校に増え、学校と地域のボランティア参加者をつなぐ人材の確保や活動の充実が進んできている。
	令和2年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、年度当初休業期間があったにも拘らず、延べ約17万8千人にも上るボランティアが市内小中学校で活動を行った。また、「学校と地域（よこのつながり）」を強化していくために、有効な活動事例等の情報を必要としている学校に対して、「学校・地域ひとつなぎだより」「学校・地域ひとつなぎリーフレット」等による事例紹介により、コロナ禍に合わせた学校支援活動の推進を実施している。
	令和3年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、活動は制限されたが、延べ17万5千人にも上るボランティアが市内小中学校で活動を行った。また「学校・地域ひとつなぎだより」「学校・地域ひとつなぎリーフレット」等による事例紹介により、コロナ禍であっても必要とされる学校支援活動の推進を実施している。
	令和4年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	延べ約18万人にも上るボランティアが市内小中学校で活動を行った。また、「学校と地域（よこのつながり）」を強化していくために、有効な活動事例等の情報を必要としている学校に対して、「学校・地域ひとつなぎだより」「学校・地域ひとつなぎリーフレット」等による事例紹介、推進員による情報提供等により、中学校区の学校支援活動の推進を実施した。

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。－：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率 (%)	評価	目標値の算出根拠
	地域の人材・施設の活用を行った学校の割合	(2018)	77.9% (小) 66.9% (中)	1	79.2% (小) 68.6% (中)	84.2% (小) 86% (中)	106.3% (小) 125.4% (中)	S
2				79.2% (小) 68.6% (中)	—	—	—	
3				79.2% (小) 68.6% (中)	91.7% (小) 81% (中)	115.8% (小) 118.1% (中)	S	
4				79.2% (小) 68.6% (中)	92.6% (小) 85.4% (中)	116.9% (小) 124.5% (中)	S	
指標以外の成果			1					
			2					
			3					
			4					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
学校応援団推進事業(教育総務課)	①中学校区ごとに統括的な地域学校協働活動推進員を配置 ②全小中学校での学校応援団活動の実施	1	1	11,407	0	10,753	1.0	0.5	0.0	○
			2	115,013の一部	0	9,362	1.0	0.5		
			3	103,496の一部	0	9,736	1.0	0.5		
			4	104,133の一部	0	12,251	1.0	0.5		
キャリア教育推進事業(学校教育課)	①中学校職場体験学習の実施(新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度未実施)	2	1	83	0	75	0.5	0.0	0.0	○
			2	83	0	0	0.0	0.0		
			3	79	0	51	0.5	0.0		
			4	77	0	59	0.5	0.0		
学校・家庭・地域連携事業(教育総務課)	①学校と地域の連携を推進する人材の育成 ②学校と家庭、地域との連携した取組の周知	1	1	1,665	0	1,476	0.5	0.0	0.0	○
			2	1,581	0	1,373	0.5	0.0		
			3	1,503	0	1,432	0.5	0.0		
			4	1,577	0	1,427	0.5	0.0		
放課後子ども教室推進事業(教育総務課)	①小学校へ地域学校協働活動推進員を配置 ②各小学校での放課後子ども教室の開催	1	1	113,856	0	65,245	2.0	1.0	2.0	○
			2	115,013の一部	0	57,521	2.0	3.0		
			3	103,496の一部	0	57,075	2.0	3.0		
			4	104,133の一部	0	68,002	2.0	3.0		
コミュニティ・スクール導入推進事業(教育総務課)	①中学校区での小中一貫学校運営協議会導入の準備 ②コミュニティ・スクール設置校での学校運営協議会の開催	1	1	280	0	271	0.5	0.0	0.0	○
			2	520	0	440	0.5	0.0		
			3	629	0	598	0.5	0.0		
			4	2,060	0	1,555	0.5	0.0		

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例(◎:計画より進んでいる、○:計画どおり進んでいる、△:計画より遅れている、-:計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった)

(4) 今後の取組や方向性

本施策は総合評価欄のとおり期待どおりの成果をあげることができたが、中学校区を単位とした地域学校協働活動の体制整備を進めるとともに、現在までに設置の進むコミュニティ・スクールとの一体的な実施を見据えながら事業を推進する必要がある。

また、地域学校協働活動を推進する推進員の確保及び育成や、各学校において、ボランティア活動の中心となって活動できる地域人材を継続的に発掘・確保していく必要がある。

加えて、コミュニティ・スクールについては、全中学校区への導入を進めるとともに、今後は質の向上や持続可能な体制づくりを図る必要がある。

このことから、「①学校・地域への働きかけ」「②地域人材の発掘・育成」「③関係課との連携」に取り組んでいく。

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	5 子ども・教育
----	----------

評価責任者	所属	教育局 教育施設課
	氏名	課長 宇佐美和彦

政策	2 学校、家庭、地域が連携し社会を生き抜く力をもった子どもたちを育てます
----	--------------------------------------

施策	4 安心・安全で充実した教育環境の整備
----	---------------------

施策の目的	<p>小中学校については、建設後30年以上経過した校舎、体育館等が8割を超え、老朽化した建物が多く存在します。また、学校給食施設についても老朽化が進み更新時期を迎えている施設もあります。</p> <p>子どもたちが安心・安全で快適に教育を受けることができる環境を整えることは、学習意欲を向上させ、健やかで、たくましく、しなやかに生きる力を持った子どもたちを育てることに繋がります。</p> <p>そこで、良好な教育環境の整備に向け、小中学校や学校給食施設の老朽化対策を計画的・効率的に進めるとともに、防災教育の充実を図っていきます。</p>
-------	--

（1）総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	学校施設の改修を計画的に実施することにより、重大事故の発生を未然に防ぐことができた。また、エアコンの設置事業について、計画どおりに進んでおり、成果指標の目標値を達成できているため「A」評価とした。
	令和2年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	学校施設の改修を計画的に実施することにより、重大事故の発生を未然に防ぐことができた。また、エアコンの設置事業について、全ての小中学校の普通教室に設置が完了し、成果指標の目標値を達成できているため「A」評価とした。
	令和3年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	学校施設の改修を計画的に実施することにより、重大事故の発生を未然に防ぐことができた。成果指標の目標値を達成できているため「A」評価とした。
	令和4年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	学校施設の改修を計画的に実施することにより、重大事故の発生を未然に防ぐことができた。成果指標の目標値を達成できているため「A」評価とした。

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。－：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

（2）成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（％）	評価	目標値の算出根拠
			1	0日	0日	100.0%	a	
成果指標	施設の不備により授業が実施できなくなった日数	0日 (H30年度)	2	0日	0日	100.0%	a	子どもたちが安心・安全で快適に学校生活を送るためには現在ある施設は適切に維持管理していくことが重要であるため、施設の不備により学校運営に支障をきたさないように目標を設定した。
			3	0日	0日	100.0%	a	
			4	0日	0日	100.0%	a	
			1	70%	70%	100%	a	
	小中学校普通教室へのエアコン設置率	1% (H30年度)	2	100%	100%	100%	a	
			3	-	-	-	-	
			4	-	-	-	-	
			1					
指標以外								

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
小中学校普通教室空調設備整備事業（教育施設課）	①小中学校普通教室へのエアコン設置 ※令和2年度で事業終了	1	1	2,259,259	3,962,840	3,879,109	3.3	0.0	0.0	○
			2	0	2,223,800	1,996,043	3.3	0.0	0.0	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
学校施設アセットマネジメント推進事業（教育施設課）	①大規模改修・構造保全工事の完了に伴い、仮設校舎からの引越し、撤去の実施	2	1	777,100	109,700	433,720	0.4	0.0	0.0	○
			2	358,195	410,020	717,368	2.0	0.0	0.0	
			3	814,345	368,083	1,061,916	2.0	0.0	0.0	
			4	46,584	—	41,979	2.0	0.0	0.0	
小中学校校舎トイレリフレッシュ事業（教育施設課）	①老朽化したトイレの洋式化 ②トイレの床を乾式化 ③給排水設備と内装の全面改修（設計12件、工事6件）	3	1	1,815,850	272,500	506,989	1.6	0.0	0.0	○
			2	89,280	1,534,714	1,371,572	1.3	0.0	0.0	
			3	23,600	780,320	647,021	1.3	0.0	0.0	
			4	0	333,100	290,395	1.3	0.0	0.0	
空調設備改修事業（静岡看護専門学校）	①空調設備改修の実施（工事1件） ※令和2年度で事業終了	4	1	—	—	—	—	—	—	○
			2	25,960	0	25,960	0.1	0.0	0.0	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
小中学校基幹設備等改修事業（教育施設課）	①受変電設備改修の実施（工事1件） ②給水設備改修の実施（設計2件） ③外壁打診点検業務の実施（16校）	5	1	272,700	16,500	237,866	1.7	0.0	0.0	○
			2	302,300	15,191	302,053	1.7	0.0	0.0	
			3	264,000	0	210,879	1.7	0.0	0.0	
			4	278,700	0	242,981	1.7	0.0	0.0	
学校施設修繕工事・長寿命化事業（市立高等学校）	①市立高等学校の外壁等改修工事の実施（工事2件） ※令和元年度で事業終了	6	1	51,112	0	46,686	0.5	0.0	0.0	○
			2	—	—	—	—	—	—	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
防災教育の推進（児童生徒支援課）	①小中学校に防災アドバイザーを派遣（市内10校）	7	1	275	0	250	0.1	0.0	0.0	○
			2	275	0	0	0.1	0.0	0.0	
			3	250	0	225	0.1	0.0	0.0	
			4	275	0	275	0.1	0.0	0.0	
教職員住宅改築事業（教育施設課）	①大川教職員住宅の改築工事の実施 ※令和2年度で事業終了	8	1	130,351	0	65,764	0.4	0.0	0.0	○
			2	2,325	63,254	59,071	0.4	0.0	0.0	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
学校用地借地買収事業（教育施設課）	①売買契約の締結 ②所有権移転 ③支払い ※令和4年度は実績なし	9	1	60,500	0	56,100	0.1	0.0	0.0	○
			2	7,303	0	7,248	0.1	0.0	0.0	
			3	0	0	0	0.1	0.0	0.0	
			4	0	0	0	0.0	0.0	0.0	

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後の取組や方向性

本施策は総合評価欄のとおり期待どおりの成果をあげることができたが、小中学校施設については建設後30年以上経過した校舎等が8割を超え、老朽化した建物が多く存在する中、今の時代に合った学習環境の早急な改善が求められている。第4次総合計画において学校施設アセットマネジメント推進事業等の取組について、予算配分の見直しを図ることで課題の克服を目指しつつ、良好な教育環境の整備や、適正規模・適正配置方針に基づく学校統合による施設整備に取組んでいく。